



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

(HP) <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> (e-mail) office.osaka@nsk.org

第409号 2009年10月11日発行

ペンギン折り紙とわたし

司祭 サムエル 松岡 虔一



八月九日の長崎原爆記念日には全国から多数の千羽鶴が贈られてきますが、二〇〇二年に鶴ではなく折り紙で作ったペンギンを献納する運動がはじまりました。長崎には全国で唯一の「ペンギン水族館」があり、市民に親しまれています。大田美智子姉（全国ペン

和ペンギン運動の普及に努めてきました。数年間は井出一志先生（城南基督教会信徒）の紹介で大阪市内の小学校を訪れ平和教育の一環として「被爆体験とペンギン製作」をしてきましたが、最近では近隣の諸教会、人権団体、YMCA各支部への普及を図っています。

民族間の平和共存

ペンギンは同じ水槽で異種類が仲良く暮らしており、異民族の共栄、共存を祈願する人類平和のシンボルとして相応しく、微笑ましい光景を目にした見学者たちが館内に設置してある折り紙でペンギンを折り保存箱に入れていく。こうして集まったペンギンは七月頃にボランティアが五百

ません。ペンギンには折ってくださった一人一人の折りが込められているのです。

地球環境との平和共存

ペンギンは地球環境と人類との平和共存のシンボルでもあります。近年の地球温暖化で南極や北極の水が激減し、氷山を住み家とするペンギンが半減、このまま温暖化が進行すれば将来絶滅の危機にさらされています（読売新聞特集）。

氷山で生息する生き物は激減しつつあり、温暖化防止は人類共通の課題です。先日NHK特集はモンゴルの大草原に異変が起き、地下の永久凍土が溶けだして地盤沈下が起こっていることを報じていました。ペンギン献納運動には温暖化防止の祈りも込められているのです。

既に大阪教区や京都教区の諸教会、団体が長崎にペンギンを贈ってくださっています。さらに多くの方々が参加くださるよう願っています。（折り方のプリントは私まで請求してください）

（まつおか けんいち 退職司祭）

ギン展主催者・芦屋聖マルコ教会信徒）の提唱にペンギン水族館が賛同し、長崎を象徴する平和のシンボルとして献納する運動が起こったのです。私は長崎の被爆者であり、また当時の故伊藤市長が長崎西高校の後輩で、同窓会の度に声援してくれたので、当初から平

羽ずつ束にして全国から贈られてきたものと共に大田姉や水族館職員の手によって平和公園に献納されるのです。私たちの願いは人類の恒久平和です。あらゆる人々が言語、思想、文化、さらには宗教さえも超えて共栄、共存していかなければ私たちの未来はあり

私は牧師の次男として京都聖ヨハネ教会で生まれました。その教会は今愛知県の明治村の正門を入った右手の丘の上に立っています、自分の生まれた教会が永久保存されていることは大きな喜びであります。

さて、父の勤務の関係で新宮、伊勢を経て昭和18年大阪に移り住みました、それ以来

川口基督教会でお世話になって

います。その頃から太平洋戦争が激しくなり昭和20年3月石橋荘園のミス館に転居しました。

4月7日早朝、母に起こされた時、父は天に召されていきました。

父は優しい人でした。父に叱られた記憶はありません。ある日の夕方縁側で聖歌540番(39番) (たそがれの空暮れゆきて)を教えてくれたこと

を今も覚えています。その反面牧師としては聖なる人、厳しい人でした。戦争中食料が不足し「闇物資」が横行していましたが「闇の物は買ってはいけない」と言う主義を通しました。その為に死を早めたのかも知れません。

池田の闇市で補導されることになったり、その結果旧制中学4年生で卒業することになってしまいました。その後日立製作所神崎工場に入社職工として一年間働き、こんな事ではいけないと考え夜学の専門学校に3年間通いました。

毎日6時半には家を出て帰りは11時。就寝は夜中の2時と

まと共にあゆむ 4

私の歩んだ道

ヤコブ 名出 敬



くし、8月には敗戦となり、9月には祖父を亡くしました。少年から大人になる節目の時、私にとってあまりにも大きすぎるショックでした。桃山中

学から池田中学に転校しましたが、転校生であるが故にひどい「イジメ」に遭い、家からお金を持ち出すことを強要されたり断ると殴られたり、遂に学校に行くことが出来ず

いう生活が3年間続きました。日曜日が休日でなく教会との縁も切れ、神様も信じられなくなっていました。そんな時

母と意見が衝突し、母が泣いて祈ってくれました。母の祈りに目を覚まされ再び教会とつながることになり、勤務もサーブス関係に変わり、日曜日が休みになり、日曜学校のお手伝いも出来るようになり

して言葉に言い尽くすことが出来ないお恵みを頂きました。

今ギデオン協会の働きをさせて頂いていますが、日曜学校の子供たちのことを思い出しながら聖書を手渡している今日のごろです。
(ないで けい 川口基 督教会信徒)

第4回日韓聖公会青年セミナー

井上 瑠美

8月13日から18日の6日間、真夏の韓国の強い日差しの下、第4回日韓聖公会青年セミナーが行われました。日本全国から13人の青年たちが韓国に行き、韓国でも13人の青年たちが迎えてくれました。スタッフを合わせると総勢約40人でした。

最初の3日間は、華川(フアチョン)という朝鮮民主主義人民共和国に近い、山と湖の広がるところで過ごしました。韓国の青年達と共に平和のTシャツを作ったり、川に行つてヤマメを捕まえ、それを焼いて食べたり、キャンプファイヤーなどの交流があり、自然の中でたくさん笑い合うことが出来ました。また、華川から船に乗り、朝鮮民主主義人民共和国が上流に建設したダムが韓国への水攻めをする

(次頁につづく)



(前頁よりつづく)
 ためのものと捉え、その下流に韓国が建設した平和のダムや、何重もの金網で区切られたDMZ(軍事的非武装地帯)など朝鮮戦争の南北緊張がいまだに続く場所を訪ねることも出来ました。どちらも自然豊かで鳥やトンボが自由に歩き来しており、ただ人間だけが最

新の武器を持ち、互いに金網越しに監視しているのが、島国に住み、平和に慣れ過ぎている私にとっては、とても違和感があり、目の前にある隣国がはるか遠くに感じたのです。
 後半の3日間はソウルで活動しました。日曜は韓国で一番大きいといわれる大聖堂で聖餐式に出て、韓国の青年が用意してくれたツアーでソウルを観光しました。7月24、25日の名古屋で行った事前研修会で考えた日本側からの発題、韓国側が用意してく



れた発題について互いに意見し、話し合う時間がありました

子どもたちはどうに？

松崎町
だより

中学2年生の時から日曜(教会)学校の手伝いを始め、生徒からいつの間にか先生に昇格し(？)、高校・大学時代も若さと元気だけで毎主日休まず子どもたちと過ごしてきた。神学校卒業時には、遣わされた教会で

日曜(教会)学校にエネルギーを投入しようと決意したことを、40年近い月日が流れた今でも、つい昨日のよううに思い出す。
 大阪へ来て初めての4月29日、川口基督教会でのキッズフェスティバル2009、そして8月6、8日、紀泉わいわい村での大阪教区青少年キャンプに参加した。

確かに子どもたちはそんなに多くはない。でも、この催しのために貴重な時間を割き、見えないところで良き準備をしてくれた若いスタッフたちがいたことはとても嬉しい。
 少子・高齢化の波は当然、教会の中にも押し寄せて来ている。子どもたちへの宣教は、高齢者への宣教的関わりに勝るとも劣らない重要課題だ。
 教区・教会の中で、子どもたちへの目がどれだけ熱く注がれているだろうか？ 5年

10年先には少なくとも、今より子どもたちの元気な姿が見え、声が聞こえる大阪教区をみんなで築き上げていきたい。小さくても少なくともいい、あちこちの教会で地道な取り組みが根気よく、主にある希望を持ってなされることを願っている。
 (主教 サムエル 大西 修)

た。今回のセミナーのテーマは「葛藤を越えて、平和の世界へ：」でした。戦争や日本が韓国に対し行ってきた偏見や差別などが起こす葛藤はもちろんであるが、セミナー中、言葉の壁や文化の違いなどの葛藤を数多く感じました。時間がかかるが葛藤と向き合い、互いに相手のことを理解しようとして観察、推測し、調和しようとして試みることで葛藤は超えられることを6日間を通して身をもって知ることが出来ました。セミナーが終わったから終わりじゃなく、これから私にできることはきつとたくさんあるでしょう。ここから何か始めようと感じたセミナーでした。
 最後にりましたが、セミナーを準備して下さった日韓スタッフ、韓国の青年たち、セミナーに誘って下さった方々、支援し見守って下さった方々に心より感謝しております。
 (いのうえ るみ 高槻聖マリア教会信徒)

日本聖公会 宣教150周年 東京で盛大に記念礼拝

カンタベリー大主教、シヨール米国総裁主教も列席



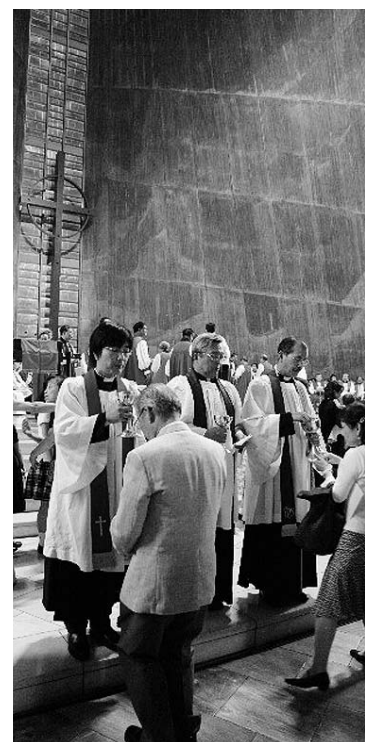
日本聖公会宣教150周年を記念する礼拝や様々な行事が9月22日(火)、23日(水)の2日間にわたり東京で行われ、「こぎ出せ、沖へ」をモットーに全国から多くの信徒が参集。また海外からもローワン・ウイリアムズ・カンタベリー大主教、キャサリン・シヨール米国聖公会総裁主教をはじめ、多くの聖職・信徒が来日され、世界に広がる「ア

ングリカン・コミュニティ」の交わりの豊かな恵みに感動の時を過ごすことができた。22日の「夕の礼拝」は立教大学・池袋キャンパスのサッカーホールで行われ、満員の参加者の熱気の中、大西修・大阪教区主教が司式、シヨール総裁主教が説教された。説教はまず「日本聖公会のルーツはアメリカ帝国主義にある」と指摘、「神の働きは平和や神聖さとは無関係から

はじまることもある」と述べたあと、「日本聖公会が過去の戦争・占領での暴力を悔い改め、謝罪したことが、韓国をはじめ世界のキリスト教徒に勇気ある手本を示した」と賞賛、最後に「地域に根ざす教会は、パチンコ店やアニメ、匿名の群集があふれる都会で福音を語っていかなく

ればならない。その証はヨーロッパや北米の教会にとつて参考になるだろう」と結ばれた。

翌23日、記念礼拝の聖餐式は午後1時30分からカトリックの「東京カテドラル聖マリア大聖堂」に二千七百人の聖職・信徒や内外からの来賓の方々が参加、広大な聖堂も超満員。定刻、教役者の入堂プロセッションからはじまり、長い列が延々と続く。植松誠首座主教が司式、まず共同懺悔から始まり、「高慢、虚栄、貪欲などによって世界を汚し、戦争、分裂などで多くの血を流した」ことを懺悔。福音書朗読に続いてローワン・ウイリアムズ・カンタベリー大主教が説教された。大主教は、「米国のウイリアムズ



教とともに、神はもう一人の僕エドワード・ピカステス主教を英国から日本に派遣された」と述べ、同主教が名古屋での堅信式で家上がるるとき、日本の習慣にしたがつて靴を脱いだエピソードを挙げ、「はだしは貧困の生活を連想させ、モーセが燃える芝の彼方から靴を脱ぐよう命じられた神の声を聞いたことを連想させる。宣教はそれぞれの場を聖なるものとされ、ミッションは質素でなければならぬ。地面を軽やかに歩き、旅の隣人に敬意を払い、向き合い、語る前に聞くこと、神に目を向け、耳を傾けることが大切である」と語られた。

陪餐のとき、カンタベリー大主教は子どもたち一人一人
(次頁最下段につづく)

カンタベリー大主教 大阪を訪問

主教座聖堂で聖餐式に列席



左から岩城聰司祭、内田望司祭、大主教秘書ユードル司祭、(1人おいて)大西主教、カンタベリー大主教、スティーブンス・レスター教区主教、植松首座主教、頼榮信主教

日本聖公会宣教150周年の礼拝など、東京での記念行事の日程を終えられたローワン・ウイリアムズ・カンタベリー大主教と一行の方々は、長崎訪問のあと大阪を訪れ、26日朝、大阪教区主教座聖堂・川口基督教会での朝の聖餐式に列席された。午前7時、教会に近い宿泊先のホテルから車に分乘された一行はカンタベリー大主教をはじめレスター教区主教ティモシー・ステイブンス師、カンタベリー大主教秘書ジョアンナ・ユードル司祭、C

MS総主事・テイム・デイキン司祭らと、日本聖公会首座主教・植松誠師。大西修・大阪教区主教の司式

で行われた聖餐式には、早朝にもかかわらず駆けつけた約70人の信徒に加え、台湾聖公会の頼榮信主教の姿も。毎朝、聖餐式を守られるカンタベリー大主教は、この朝、とくに川口での礼拝と、そのあとの信徒たちとの交わりを希望され、わずかな時間であったが



大西主教から記念品の贈呈を受けるカンタベリー大主教

大主教は式後の挨拶のあと、信徒たちとの会話を楽しまれた。また教会の信徒手作りの日本情緒豊かなプレゼント「人形の匂い袋」に目を細め、記念写真の撮影に応じられたあと次のスケジュールへと向って行かれた。カンタベリー大主教はこの日、「桃山学院創立125周年・大学開学50周年」の行事に向われたあと、京都の東寺を訪問され、新幹線で東京に戻られ一泊のあと成田から帰国された。(編集部)



立教大学でのレセプション風景
左から2番目がショーリ米国総裁主教

(前頁よりつづく)
の頭に手を置いて祝福され、礼拝の最後には子どもたちが聖歌(古今聖歌集増補版第6番)「大波のように」を合唱、3時間に及ぶ記念礼拝の幕を閉じた。
これより先、様々な催しがあり、立教キャンパスでのシンポジウム「東アジアの平和と聖公会の役割」、チャペルでの大韓聖公会オモニ聖歌隊コンサート、学生食堂での「交流会」には予定の数倍もの数百人が参加、ショーリ米国聖公会総裁主教も参加された。またキャンパスには各教会、関連団体など56の展示ブースが軒を連ね、大阪教区からは青年会、聖マルコ教会の「ライフリバー」、「守口ぶどうのいえ」、「生野セントター」、そして富田林聖アグネス教会の健闘ぶりが目を引いた。
(編集部)

広島平和礼拝2009年

ともに学び、行動し、祈ろう

山口 善彦

5回目となる今年には神戸教区中高生60名を含めて総員170名が参加しました。今年の平和礼拝の目的は、①原爆の悲惨さ・戦争の愚かさを、次代を担う人たちに伝える。②聖書にある「主の平和」を学ぶ。③日本聖公会に属するキリスト者としての「平和」を考える。

5日午前中、平和公園碑めぐりと原爆記念館の見学。午後は東健吉さんによる被爆体験談を聞きました。東さんは昭和20年に広島師範学校に入學され、学徒動員としてマツダ向洋工場に向かう途中、被爆された。「電柱のかがけて燃えている人、水をほしがっている人、顔・手・足の皮膚が焼け爛れて垂れ下がっている人、いろんな人を見た。7日に市内へ入ってあまりのすさまじさに言葉がなく、声を出して笑ってしまった」と語られた。

夕刻より平和公園供養塔の前で「祈りの集い」があり、原爆犠牲者に中村主教他が献水され、魂の平安を祈りました。その後、カトリック世界平和記念館聖堂まで、カトリックの人たちと合同で歌いながら平和行進しました。

19時から合同の「祈願ミサ」があり、およそ800人が、世界の平和を祈りミサに与りました。6日8時から広島復活教会で原爆犠牲者追悼聖餐式があり、原爆で亡くなられた人たちに黙祷をささげた後、中村豊神戸教区主教の「わたしたちは神による平和の使者として、また和解の使者として召しだされている」と話されました。聖餐式が終わって青年6人が、長崎まで440キロ、自転車を乗り継いで、平和の祈りを伝えるために出発しました。

いる現状について危惧されています。同時に、原爆ドーム・多くの碑・資料館等、被爆の実態を伝える「物」があり、その「物」が語り部の役割を果たしています。見て感じる物がある限り、被爆の実態は引き継がれていくと思います。

第1回「信徒奉事者の集い」

祈りこそが礼拝へのご奉仕

リベカ 田中 史

ます。たくさんの方が現地を訪れ、「そこ」に立って、そこにある物を見て「物が語る」のを聞き取ることが大事ではないかと思いました。(やまぐち よしひこ 大阪 聖三一教会 信徒)



8月23日、それぞれの教会で聖霊降臨後第12主日の感謝と賛美の礼拝を献げた後、午後2時から川口基督教会の会館3階に各教会の信徒奉事者が集まり、第1回「信徒奉事者の集い」が開かれました。

大阪教区主教座聖堂参事会主催で行われたこの集まりには、大西修主教、主教座聖堂参事会(主任参事・内田望司祭)、そして8教会から信

徒奉事者21人が出席し、教会ごとに現在の信徒奉事者の働きを報告した後に、質問、意見、要望などを述べる時間が設けられ、問題点や悩みを分かち合うことができ、大変実りの大きい集りとなりました。

大阪教区22教会のうち信徒奉事者を設けているのは9教会(33人)ですが、日本聖公会法憲法規にも奉仕の内容が詳しく記されていないこともあり、教

会によってその働きは異なっています。レイ・リーダー(Lay Reader)として、聖餐式で使徒書、詩編の朗読、代祷、そして分餐のチャリス奉持、病者訪問などのお手伝いをさせていただいている川口基督教会では、それがごく普通のことだと思っていました。分餐のお手伝いはしない教会もあると知って驚きました。また、み言葉の礼拝で司式、奨励をされている方々のご苦勞を聞き、その霊的なお働きに感動しました。

この集いで、信徒奉事者の奉仕の中心は祈りであること、を改めて心に刻みました。また、もっと学ぶ機会が必要だと痛感しました。多くの方が同じように感じておられたよう、教会ごとや他教会との合同で、そして教区主催でのトレーニングを希望しておられました。「信徒奉事者の集い」がこれからも定期的に行われて、信徒奉事者が互いに学びを分かち合うことができれば、仕える喜びがさらに大きくなると思っています。(たなか ふみ川口基督教会 信徒)



勝ち抜きクイズにいどむ神学生たちのチーム

神学生を囲むつどい

— 未来の聖職に期待をかけて

石毛 弘

大阪教区神学生後援会は8月30日(日)午後、西宮聖ペテロ教会で近年恒例の「神学生を囲むつどい」を催しました。教区内のほぼ全ての教会から聖職12人と神学生4人を含む総計125人が集まりました。

神学生はウイリアムス神学館で学ぶ林正樹さん(西宮聖ペテロ教会)と千松清美さん(庄内キリスト教会)、聖公会神学院で学ぶ奥村貴充さん(堺聖テモテ教会)と古澤秀利さん(聖ルシヤ教会)で、昨年4月からそれぞれの学び舎で学業に励んでいます。

「つどい」は久保義道さん(東豊中聖ミカエル教会)の司会が始まり、山田緑さん(西宮聖ペテロ教会)の奏楽のもとに聖歌が歌われ、原田光雄司祭の開会の祈りのあと、神学生の自己紹介が行われました。続いて、千松神学生が作成したウイリアムス神学館での生活スナップが映し出され、林神学生が説明に当たりました。

また、神学生に率いられた4チームによる「ヘキサゴン」方式のクイズ勝ち抜き競争が阿部仁美さん(庄内キリスト教会)の軽妙な司会のもとに行われました。最後になったチームの神学生が「お恵み」

を受けました。

今年も奥村神学生が、この「お恵み」を受けることになりました。出席者から「牧師に就任したらどのようにして信徒を増やすか」というテーマが与えられましたが、奥村神学生は使徒言行録を引用するなどして、即席で3分間の

世界の窓

◎カンタベリー大主教がユダヤ人へ手紙を送付。

ローワン・ウイリアムズ・カンタベリー大主教は、ユダヤの新年祭であるロシユ・ハシヤナに際して、ユダヤ人コミュニティに喜びの挨拶レターを送った。その手紙の内容は、アウシュビッツでの大主教の回想とイスラム教、キリスト教との連携、また中東での平和の祈りとなっている。

(Anglican Communion News Service Digest News September 18, 2009)

◎カンタベリー大主教、イスラム教へ昨年の感謝を込めて
ラマダン(断食月、Rama-

見事なメッセージにまとめました。

そして、席上献金と大西修主教による献金感謝の祈りと終わりの挨拶があり、熱気に溢れたこの「つどい」が閉じられました。

なお、献金は90,576円、感謝をもって神学生後

援会会計に繰り入れられました。

会場を提供くださった西宮聖ペテロ教会の皆様のご奉仕に感謝いたします。
(いしげ ひろし 西宮聖ペテロ教会信徒、囲むつどい実行委員)

りと、昨年ムスリムコミュニティから受けた全ての恵みの感謝を綴っている。

(Anglican Communion News Service Digest News September 21, 2009)

CDのご案内

「聖歌集」が出来て3年になります。このたび、東京教区礼拝音楽委員会(委員長・司祭宮崎光)の企画・制作で、実際の礼拝の中で歌われたものを含め、22曲を収録したCDが完成しました。

今日もまた新しく

～礼拝で歌われた「日本聖公会聖歌集」～

1枚/1,700円(税別)

10月18日(日)の教区礼拝の時にも販売予定です。

お問い合わせは
大阪教区 礼拝・音楽委員会 高橋明子まで

大阪教区青少年キャンプ

2泊3日伸び伸びと

並里 翔

今年も紀泉わいわい村にて8月6日から8日までの2泊3日の青少年キャンプを行いました。私自身今年で3回目の参加となりましたが、今までの2回に比べて今回は子どもも参加者だけでなく、インフルエンザによる大学の試験の遅れでスタッフ自体少なかったので不安も多くありました。しかし、人数が少なかったことによる良い点もありました。1つ1つの細かいプログラムもとても印象深かったのですが、3日間を振り返ってみてまず思い出されるのは、少人数だったためか子供たちみんながグループをこえて伸び伸びとしたキャンプができた、ということでした。そしてそれは子供たちの純粋さや優しさのおかげであり、その点でスタッフは子どもたちに多く助けられたのだと感じました。

子どもたちがキャンプに参

加してくれて、食事スタッフ、シニアのスタッフの方々が食事の準備やキャンプ運営の手助けをしてくださり、大学生を中心とした青年スタッフが数多くのミーティングを重ねたことによって誰もけがをすることなく、すばらしい1つのキャンプを作り上げることができたと思っています。キャンプが終わり、キャンプをふりかえる今になってようやく今回の主題聖句である「体は一つの部分ではなく、多くの部分からなっています」という聖書の言葉を強く感じるようになりました。今回のキャンプに参加してくれた子どもたち、そしてスタッフの皆さんとの出会いを与えてくださってことを深く感謝しています。(なみさと しょう 大阪パウロ教会信徒 大阪教区青少年キャンプ実行委員長)

第2回 オールター・ギルド研修会 池本 彰男

2009年

後片付けの講習が行われた。テーマは「仕えよう 喜びを

3月29日に川口基督教会で1回目は入門編としてオールターの務め、基礎知識(名称、使い方等)の学び、今回の7月26日の2回目には実践編として聖餐式の準備と

もつて」。

祈りのうちに始まった講習は聖餐式とオールターの心構えの関わりを重要さを強調していた。神の前に聖く在るために清潔さを、賜物を献げて喜びを、隠れて祈りをするように目立たない奉仕をする事など。具体的には備えが聖餐準備の式、片付けが感謝の祈りにあたり、礼拝堂に入っている前にはまず手を洗う。(聖器、聖布に手脂を付けない様に)、司祭の諸作が滞りなく出来る様

大阪教区婦人会 秋の修養会

テーマ

「愛することよりも大切にすることを求めたい」

日時: 10月19日(月) 午後1時

場所: 石橋聖トマス教会

阪急宝塚線「蛍池」または「石橋」から徒歩約15分、蛍池駅バスロータリーから送迎車あり

講師: 本田 哲郎 神父

(カトリック司祭、釜ヶ崎反失業者連絡会共同代表)

主催: 日本聖公会 大阪教区婦人会

に聖器の向き、聖布のかけ方に注意する。祭服の着衣に気配りをする等。

聖餐式の後片付けで銀聖器ははげやすく、曲がりやすいので、熱い湯で洗った後、乾かして付着水の無き様片付ける事、布のアイロン掛の注意点など細かい気配りの必要な事を解り易く田中史姉が説明しておられました。

最後にサーバーとオールターの協力がなければ聖餐式が成り立たないので地味な事でも気配りが必要と話されました。会場の雰囲気はオールターの失敗談や、司祭のウ

イットに富んだ話があり、終始にわたり和みと笑いがありましたし、とても良い講習でした。今回の講習で学んだ事を各教会で活かせば、今までの以上に主の臨在を感じる礼拝を献げられると思えました。詳しく学びたい方の資料として「礼拝と奉仕」私たちと礼拝(聖公会出版)を読まれる事をお勧めいたします。講習の参加者とこれからオールター奉仕者になる方に主の恵みの在る事を祈りつつ、各教会での礼拝が祝されますように。(いけもと あきお 聖ガブリエル教会信徒)



齋藤みちさんの話に聞き入る参加者

黙想会で深められた私の信仰

義平 雅夫

8月13日(木)から15日(土)まで、宇治のカルメル修道会テレジア修道院において、京都教区・大阪教区の聖職養成委員会が主催した教会奉仕者のための黙想会が持たれました。この会は、教会で奉仕するすべての人に共通する、何か土台のようなものを思い出させてくれるプログラムであると思えました。

京都教区・大阪教区両主教

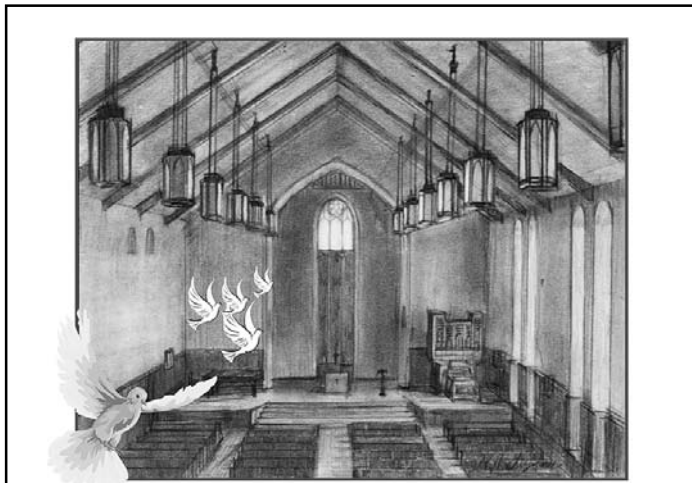
様の説教による二度の聖餐式や祈りの時間、そして沈黙の中に、講義や分かち合いの時間が用意されていました。全体的に、少しのことをゆっくりに時間をかけて体験するような内容で、緑の木々を抜ける風の音や蝉時雨に耳を傾けていると、それだけで十分心が癒えるような気になりました。

高地主教の説教からは、「それ自体」と「それが示すもの」との見方についてのお話を通して、何かを偶像に仕立て上げてしまっているのは自分自身であることを考えさせられました。大西主教の説教では、主の母マリアの記念日にちなみ、マリアの体験と信仰についてお話いただき、「恵みとは思えないことの中にある恵み」というものを自分なりに思い巡らすことができました。また、三人の方の講義を通して「仕えること」において忘れてはならないことを学びました。石橋聖トマス教会

の齋藤みちさんからは、何よりも「大人と子どもが聖餐式の感動を一緒に味わえる」ことの大切さを学びました。井田泉司祭の講義からは、「火」に関する聖書の記述を手がかりに、神に自らを献げることの意味を考える機会を与えられました。そして祈禱書に選ばれている言葉は、そのことを一つ一つ確認していくための

重い言葉であると感じました。浦地洪一司祭からは、マザー・テレサの働きのエッセンスが紹介され、ノーベル平和賞のインタビューの席上、「世界平和のために、私たちはどんなことをしたいのか」と問われて「帰って家族を大切にしていってあげて下さい」と言われたマザーの言葉に、みな何か大切なことを受け止めたように思いました。

最後に、今、不思議に感じていることなのですが、黙想会が終わって日が経てば経つほど、あの日が遠くなればなるほど、ますます深められる何かがあるように思えるのです。これは思っても見なかったことで、とても不思議なことです。このような素晴らしい会を準備してくださった皆様、心から感謝します。(よしひら まさお 守口復 活教会信徒)



日本聖公会 大阪教区 教区礼拝

— 来ませ 平和の王 —

2009年10月18日(日) 10時30分～(聖霊降臨後第20主日)

場所: プール学院清心館 (JR環状線桃谷下車)

司式者: 大阪教区主教 サムエル 大西 修師父

説教者: 司祭 ステパノ ユ シギョン 柳 時京 (立大学院チャプレン)

教 区 の 動 き

常置委員会報告

7月14日(第9回定例)

1. 主教報告

- ① 趙鍾必司祭の主日勤務(富田林聖アグネス教会、恵我之莊聖マタイ教会、石橋聖トマス教会)を決定。
- ② 聖職候補生の夏期実習先をそれぞれ決定。
- ③ 主教会報告
- * 「中川差別発言」という表現につき今後は、「第38回總會差別発言」とする。

2. 教務局長報告

(教務局だより参照)

- * 「執事による分餐」が二人の執事によって行われているが、「執事による聖餐式」と誤って用いられているので注意すること。
- ④ 京都教区との「宣教協働に關する合意書」については、両教区合同の教役者会が6月22日、24日に開かれた際、両教区主教が互いに調印した。(合意内容は教区報第408号に掲載)

- ⑤ 日本聖公会宣教150周年記念事業・礼拝(9月22日、23日)に關して、カンタベリー大主教ローワン・ウイリアムズ師は記念行事後、長崎を訪問され、25日夕刻に來阪。翌26日(土)午前7時、川口基督教会での聖餐式に列席。11時より桃山学院創立125周年記念式典に参列後帰国される。

- ② ハラスメント防止委員会(仮称)は4月15日より、5名の委員構成(長・齋藤壹司祭、山野上素充司祭、原田光雄司祭、八木さゆりさん(西宮聖ペテロ教会)、池本真知子さん(聖ガブリエル教会)で既に3回の委員会を開催。内容をまとめ、原案を次回教区会に提出の予定。

3. 協議事項

- I. 第8回(6/9)議事録を承認。
- II. 信徒奉事者推挙の件

- 守口復活教会現在受聖餐者ヤコブ義平雅夫さんの信徒奉事者推薦書を受け、主教に推挙した。
- III. 日本聖公会宣教150周年記念式に教区代表として岩城聰司祭、竹内信義司祭、畑野めぐみ氏、佐野信三氏を派遣する。

- IV. 趙鍾必司祭と大阪教区の「宣教協働者」としての契約、2010年4月1日より二期目(3年)に延長することに同意。
- V. 趙鍾必司祭を9月より、

在日韓国・朝鮮人宣教協働委員に加えることを承認。

VI. 「府・県民共済」への加入について

教役者の職務上の負傷などを保障する制度として、財務委員会は「府・県民共済」への加盟が最も妥当であると結論した。

VII. 第102(定期)教区会書記に山本真司祭、鈴木憲二さん(尼崎聖ステパノ教会)を選出。

9月8日(第10回定例)

1. 主教報告

① 人事関係

* 任大彬司祭、9月から回復に向けて「ソンプック分かち合いの家」で関司祭を補助する仕事に就いた。

* 頼榮信主教(台湾聖公会)

来日の日程は、150周年記念行事参列後、9月27日石橋聖トマス教会で説教され、29日閑空から帰国。

* 岩城聰司祭のプール学院大学チャプレン勤務は10月から週3日となる。

* 趙鍾必司祭の同大学チャプ

レン補としての勤務は10月から週2日となる。

* 10月1日より中部教区管理主教の任を負うこととなった。(新主教就任時まで)

② 管区・他教区関係日程

* 10月12日・中部教区第80(臨時)教区会(主教選挙)

* 10月18日、20日・第10回管区人権担当者協議会(大阪聖愛教会)

* 10月20日、22日・主教会(札幌)

* 2010年5月25日、27日・日本聖公会第58總會(東京)

③ その他海外からの来賓

* 9月25日、CM総主事ティム・デイキン司祭が來阪。プール学院を訪問予定。

* 11月2日、9日、米國聖公會前総裁主教のグリズウォルド師が來日し、プール学院を訪問される。

④ その他

* 新型インフルエンザ感染予防に關する文書を各教会宛に再度送付。

* 台湾の第8号台風被害地に對する義援金として災害緊急支援資金より30万円を送金。

2. 教務局長報告

① 7月、8月の經常会計収支報告を受けた。

② 富田林聖アグネス教会の建物改修に約300万円を拠出。

3. 常置委員長報告

① 「大阪教区の今後を考える小委員会」の第1回会合を8月27日に開催。構成メンバーは、常置委員の岩城聰司祭、福田光宏司祭、畑野めぐみ氏、信徒から鈴木憲二氏、大橋襄氏、長野泰信氏、豊川雅章氏、山本勝彦氏。臨時教区会後の懇談会報告をまとめている。

② この小委員会報告は、次期教区会に報告の予定。

4. 協議事項

I. 第9回議事録(7/14)を承認。

II. 芦屋聖マルコ教会からの下記要請を承認。

① 附属の愛光幼稚園を学校法人化するにつき、基本財産変更の承認を求める。

② 遊戯室建築のため、1,500万円の借り入れ。返済

計画は2012年までに完済する予定。

III. 台湾での台風被災者に対する支援の件を承認。

* 台湾聖公会の宣教対象地域の被害であり、台湾聖公会の援助活動に協力し、緊急支援に加えて全教会が10月の信施を献げること。(10月末迄)

IV. 教区礼拝信施金奉献先の件
* 信施を「九条の会」および「台湾聖公会の台風被災者救援」のため折半して献げる。



祝受洗

守口復活教会

イサベル 北野 泉 (8月30日)

大阪聖贖主教会

バルナバ 増森 邁 (2月1日)

バルナバ 宇都宮梅太郎 (6月3日)

西宮聖ペテロ教会

ペテロ 長谷川正之 (7月26日)

聖マタイ教会

ガブリエル 永田 和子 (9月20日)



祝受洗

守口復活教会

イサベル 北野 泉 (8月30日)

聖テモテ教会

ポーリン 柳原 翠 (9月6日)

聖ルシヤ教会

リディア 富賀万裕子 (9月13日)

サラ 岡村 昌子 (9月13日)

高槻聖マリヤ教会

バルナバ 中尾 拓也 (8月9日)

クララ 稲植 愛実 (8月9日)

聖母マリヤ 稲田 麻衣 (8月9日)

ダビデ 寺本 和泉 (8月9日)

東豊中聖ミカエル教会

マルタ 久保のぞみ (4月26日)

マリヤ 久保 愛奈 (4月26日)

シモン 岐邨 正昭 (6月14日)

ヴェロニカ 岐邨 章子 (6月14日)

城南キリスト教会 (6月14日)

アンデレ 泉谷 嗣郎 (6月7日)

ヨセフ 片山 純 (6月7日)

聖マタイ教会

ガブリエル 永田 和子 (9月20日)

魂の平安を祈ります

祈ります

守口復活教会

リベカ 矢野 秀子 (8月1日・82歳)

大阪聖贖主教会

バルナバ 増森 邁 (2月1日・75歳)

バルナバ 宇都宮梅太郎 (6月6日・82歳)

大阪アンデレ教会

藤田 剛一 (9月13日・91歳)

西宮聖ペテロ教会

マグダラのマリヤ 浜野 晴代 (5月26日・85歳)

石橋聖トマス教会

マリヤ 堀江 富美 (5月26日・85歳)

東豊中聖ミカエル教会 (8月10日・69歳)

フロレンス 宮川八重子 (8月20日・76歳)

聖マタイ教会

モニカ 澤井 正子 (8月31日・88歳)

芦屋聖マルコ教会

マリヤ 佐藤 節子 (9月16日・95歳)

川口基督教教会

ルツ 庄司 豊子 (9月16日・93歳)

教会・施設の動き

東豊中聖ミカエル教会

○アルファ・コース開始

10月1日(木)より、第4回のコースを開きます。最終は12月10日です。毎回、午後6時より夕食を共にし、8時30分に終了。どなたでもお申込ください。

○チャペルコンサート開催

11月15日(日)午後1時30分より。ソプラノ独唱・安田美穂子。費用・無料、ただし、カンパ(釜ヶ崎のため)あり (次頁につづく)

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇ 11月11日 (水) 11:00 ~
於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

- 説教者 松岡 虔一司祭
- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920 英)
 - 3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
 - 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (チャン・ボンヨン 1966)
 - 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968 英)
 - 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
 - 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
 - 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
 - 12日 宣教師 ドーラ・レイチェル・ハワード (1947 英)
 - 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906 英)
 - 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
 - 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950 英)
 - 21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941 英)
 - 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
 - 23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
 - 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950 英)
 - ?日 宣教師 アンナ・マリア・タプソン (1940 英)

◇ 12月9日 (水) 11:00 ~
於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

- 説教者 大西 修主教
- 1日 宣教師 エデイス・イライザ・ソープ (1930 英)
 - 2日 主 教 チャイニング・モア・ウイリアムス (1910 米)
 - 13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946 米)
 - 16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
 - 17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912 米)
 - 宣教師 エミリー・ピショップ・ボウルトン (1926 英)
 - 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888 英)
 - 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
 - 司 祭 近重 利澄 (1934)
 - 27日 司 祭 ヘンリー・レナード・ブレビー (1942 英)
 - 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
 - 29日 司 祭 マルコ 伊墻 八東 (1978)
 - 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 11 時から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

石橋聖トマス教会
○フライデーナイト映画会
10月16日「ハッピー・フライト」、11月20日「旭山動物園物語」ベンギンが空をとぶ」、12月18日「ルーキーズ・卒業」を上映します。第三金曜日午後7時からです。無料です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

西宮聖ペテロ教会
○8月23日(日)午後3時から、日曜学校恒例のバーベキューと花火大会を開催。夏休みで真っ黒の子どもたちが、久しぶりに聖堂で礼拝の後、会館でゲームに興じ、5時頃から婦人会・男子会が用意したバーベキューをお腹いっぱいいただき、夕闇に包まれた庭で花火を楽しんだ。

○8月30日(日)午後3時から、教区神学生後援会主催の「神学生会を囲むつどい」が当教会で開かれ125人が参加。ウイリアムス神学館で学ぶ林正樹、千松清美、聖公会神学院で学ぶ奥村貴充、古澤秀利の4氏を囲んで学生生活の報告を聞いた後、4グループに分かれて競技。最後に同後援会長である大西主教の力強い励ましと祝福で幕を閉じた。

芦屋聖マルコ教会
○9月6日の礼拝に引き続き臨時受聖餐者総会を開催し、「愛光幼稚園の遊戯室建設及び建築資金1500万円借入、愛光幼稚園を学校法人化し園舎及び遊戯室を無償譲渡すること」を決議しました。

○愛光幼稚園は10月10日(土)午前10時より運動会を開催します(雨天のときは12日に延期)。

○9月20日には75歳以上の方々(46名中21名の方々がご出席)を覚えて長寿感謝の礼拝をともにし、礼拝に引き続き長寿お祝いの会を開催しました。

テーマ「リハビリでわかったみ言葉の真理」
—— 元NHK解説委員が語る証し ——

講師 藤田太寅氏 関西学院大学客員教授
元NHK解説委員
東京教区三光教会信徒

日時 11月15日(日) 午後1時半～ **無料**

会場 川口基督教会 会館3階

どなたでもご参加いただけます。どうぞお越してください。